

添田町の高齢者の高齢者による 高齢者のための対策

Bグループ

前田 洋征

田中 新一

西村 雄志郎

濱野 倅太



発表の流れ

- はじめに
- 高齢者支援対策のための方針
- 高齢者支援対策に対する提案
- 提案に対する具体例
- システム案
- システム活用内容
- まとめ

はじめに

- 現在の日本は高齢化が進んでおり、深刻な問題となっている
- 添田町(平成24年10月31日)
 - 人口:11,123人 4,929世帯
 - 高齢化率:34.02%
 - 福岡県内でもトップクラスの高齢化率
- 今回は添田町における高齢者支援対策を考えた

方針

- 高齢者支援対策としては...
 - 介護（例）ホームヘルパー
 - 見守り（例）テレビ電話やセンサを使った安否確認
 - 住みやすい環境作り（例）バリアフリーなどありますが

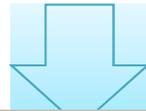
生きがい作り

目標

高齢者に元気になってもらうシステムの開発

提案

- 添田町の高齢者は
 - 元気な人が多い
 - 穴場を知っている
 - その人しか知らない知識や技術を持っている



高齢者がその知識や技術で活動できるサークルの
設立

高齢者が添田町の事を若者に伝える

- サークル名
 - ぽっぷす (POPS : Powerful Old People Soeda)

サークル活動の具体案

- 添田町の観光ガイド
 - 英彦山に加えてそれ以外の観光地の紹介
- 民泊
 - 沢登り、川遊び、自然体験
- 農業体験
 - 農作放棄地の利用
- 手工芸
 - 伝統工芸品から絵はがきのような小さいものまで
- 料理教室
 - 地元の特産物を生かした料理

など・・・₆

高齢者同士のつながり

- 各個人で知っている知識に違いがあるので、高齢者同士で情報共有する
- 各地方でバラバラに活動する高齢者だが、定期的に集まる機会を設ける
- 高齢者同士だけでなく、若者とのつながりも実現する

高齢者が幅広くつながりを持って活動することで、自身の元気作り

→その際にICTを活用できないか？

システムの構想

概要

添田町の高齢者が**つながり**、**情報共有**、**情報発信**ができるSNSのようなコミュニケーションツール

構成

- フォントを大きくしシンプルで分かりやすいレイアウト
- チャット機能
- ビデオ通話で会話
- 声を文字に変換
- スマートフォンから直接写真をアップロード
- 情報発信として動画をアップロード

高齢者が扱いやすいアプリケーション

つながり

- 同じ地域の高齢者たちが集まって一つのページを作る
 - 例：添田町1丁目、2丁目、3丁目・・・
- 地域の間でコミュニケーションをとる
 - チャットやビデオ通話
 - それぞれの地域の人しか知らない情報も知れる
- アプリケーション上だけでなく実際に顔を合わせるサークル集会も開催

情報共有

- 各地域で撮った写真・動画をアプリケーション上で共有する
- アップロードした写真・動画等を見てくれた人に投票してもらい、サークル内でランキングを発表する
 - 評価、アクセス数
 - 高齢者の活動継続のモチベーション維持がねらい

情報発信

- 活動記録を公開する
- あまり知られていない穴場などを教える
- 小・中学校の生徒がページを閲覧できるようにし、高齢者と子どもの交流のきっかけにしてみよう

まとめ

- アプリケーションを用いて高齢者がサークル活動することにより、活力・健康につながる
- 高齢者による活動が地域活性化にもつながる
- このアプリケーションの実現には相当の技術と努力が必要である
- しかし、高齢化対策に以前よりも前向きに取り組める

サークル内のつながりと情報共有

- 同じ地域の高齢者たちが集まって一つのページを作る
 - 添田町1丁目、2丁目、3丁目…
- 地域の間でつながりを持って情報共有
 - それぞれの地域の人しか知らない情報
- アプリケーション上だけでなく実際に顔を合わせるサークル集会も開催

サークル外への情報発信

- アップした写真・動画等を見た人に投票してもらい、サークル内でランキングを発表する
 - 評価、アクセス数
- 高齢者に活動継続のモチベーションを維持してもらうことがねらい
- 小・中学校の生徒が閲覧できるようにすると高齢者と子どもの交流のきっかけにもなる